

経営者が語る、Creative Cloudの導入効果

Creative Cloudが企業経営において果たす役割とは何か。Creative Cloudグループ版をいち早く導入し、制作のみならず、コストや管理などの面でも様々な成果を上げている企業の経営者お二人に話を伺いました。

CSと比べて制作効率が数倍向上 面倒なライセンス管理からも解放

CASE 1



株式会社 ザ・ナイン
代表取締役 井筒 章夫 氏

事業内容：印刷、Web、映像等、
広告および販促物の企画・制作
従業員数：8名
www.the-9.com/

Creative Cloud導入の時期ときっかけは？

弊社の設立が2003年、ちょうどCSが登場した年です。以来、約1年半ごとにアップグレードを繰り返してきました。印刷系の仕事だけならそれほど頻繁にアップグレードする必要はないのですが、Webや映像の制作も手掛けていく上で、常に新しいテクノロジーに触れていたかったからです。そして2012年にCreative Cloudがリリースされ、必然的に移行しました。

サブスクリプションに抵抗はなかったか？

これまでのアップグレード毎のコストや手続きを考えると、むしろ定額制のサブスクリプションは歓迎でしたね。金額的にも経費計上が可能なので、面倒な資産管理の手間がなくなります。またCSの頃はせっかくアップグレードしても、印刷会社との兼ね合いからバージョンを上げられず、一度も使用しないまま次のアップグレードを迎えるということもありました。Creative Cloudなら、CS6から最新パー

ジョンまでアプリ毎自由に選んで使えるので、そうした無駄もなくなりました。

最大の導入効果は？

ライセンス管理ですね。弊社は、僕を含め全員がクリエイターです。なので、制作以外の業務もすべて自分たちでやらなければなりません。ライセンス管理も以前は台帳を作ったりしていたのですが、制作業務に追われて手が回らなくなる。そのうち人が増えたり入れ替わったりして、誰がどのライセンスを使っているのかもわからなくなります。Creative Cloudにしてからは、こうしたライセンス管理の煩わしさを軽減できたというよりも、しなくてよくなったと言えるほど楽になりました。

今後Creative Cloudに期待することは？

我々の業界も年々厳しさを増しています。作品のクオリティ以上に、時間とコストの圧縮が求められています。良いアイデアは制作者次第ですが、それをカタチにするまでの工程をとにかく効率化するしかありません。現在Creative Cloudを使っていて感じることは、5年前と比べて明らかに仕事が早くなっています。5年後、今の数倍仕事が早くなっていることを期待します。

Creative Cloud導入の時期ときっかけは？

2014年に会社を設立して間もなく導入しました。制作業務を行う上でアドビのツールは必要不可欠なのですが、設立したばかりでコストをあまりかけられませんでした。Creative Cloudはサブスクリプションという形態をとっていたので、初期費用がそれほどかからず、試しに使ってみるにはもってこいでした。サブスクリプションでなければ導入に踏み切らなかつたかもしれません。

よく使用するアプリやサービスは？

私自身はアプリを使用することはあまりないのですが、Adobe Stockは頻繁に活用しています。一般のストックフォトサービスの場合、1枚毎の決済が多く、デザイナーから画像について都度請求と決裁承認が上がってきます。また、私がダウンロードした画像をメールで送らなければならない、本来の業務が阻害されます。Adobe Stockを使うようになってからは、そういった面倒がなくなりました。

どのような効果をもたらしたか？

業務効率が大幅に向上しました。弊社の場合、ディレクター、デザイナー、コーダーがチームになって制作業務を行っており、それぞれが自宅で作業して

デザイナーの無駄な作業を減らし アウトプットを最大化

います。画像などのファイルを共有する際はメールを使うことが多かったのですが、点数が多い時などは非常に煩雑になります。Adobe Stockなら、画像を共有ライブラリに入れておけば、メンバー全員がいつでも簡単に取り出せます。カンパ用の低解像度画像と本番用の高解像度画像が自動で切り替わるのも、他のサービスにはないメリットです。

今後、試してみたいサービスは？

モバイルアプリのAdobe Comp CCは使えそうですね。ディレクターがデザイナーに指示を出す時など、電話やメールでは伝えきれないニュアンスをカンパにして伝えることで、明確な意思の疎通が可能になります。無駄な手戻り作業も減るでしょう。デザイナーのアウトプットの量を増やすには、こうした無駄な作業を極力減らすことです。Creative Cloudをフル活用して、アウトプットの量と質をさらに高めていきたいですね。

CASE 2



本気ファクトリー株式会社
代表取締役 島山 和也 氏

事業内容：ネットマーケティング事業・
デザイン制作事業・動画制作
従業員数：10名（専属パートナー含む）
www.honki-factory.com/

上司を納得させる Creative Cloud 導入のすすめ方



件名	Creative Cloudグループ版導入による制作環境の改善
目的	納期の短縮とコストの削減

課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ファイル共有の効率化 — 制作チーム内のファイル共有が煩雑化し、作業効率が低下 ✓ コンセンサスの明確化 — プロジェクト関係者の意識の相違により、手戻り作業が頻繁に発生 ✓ コスト削減 — ソフトウェアライセンスの購入、運用および管理におけるコストが増加
----	---

Creative Cloudライブラリでファイルの共有・更新を効率化

写真、ロゴ、イラスト、カラーなどの素材をクラウド上のライブラリに保存することで、メンバーは使用しているからアプリからいつでも簡単に取り出せます。1つのデータを変更すると、共有先のすべてのデータに自動的に反映されるので、更新作業の手間がありません。



効果 [参考] ベンチマーク調査による作業効率の比較 (Pfeiffer Consulting調べ) www.adobe.com/go/cc_benchmark_report

	▼ カラーテーマを共有し、適用する	▼ サーバー上の素材を見つけ、配置する
Creative Cloudライブラリを使用した場合	16秒	14秒
Creative Cloudライブラリを使用しなかった場合	2分33秒	2分35秒

モバイルアプリを活用して事前のコンセンサスを明確化

Comp CCやPhotoshop Sketchなどのモバイルアプリを使用すれば、打ち合わせ中などでもカンパやスケッチを手早く作成できます。プロジェクト関係者の間でレイアウトやデザインの方向性を事前に確認し合えるので、制作後の手戻り作業を大幅に減らすことができます。



その他の メリット	ライセンス管理の負担軽減 ライセンスの追加、割り当て、変更を1つのコンソール画面で行えます。利用状況を常に把握できるため、コンプライアンスを担保できます。	Mac/Windowsで2台まで使える MacとWindowsのどちらでも、1ユーザーあたり2台までのコンピューターにインストールできます。外出先や自宅での作業にも便利です。(2台同時起動はできません)	低い初期費用で経費計上も可能 年間契約プランのため予算が立てやすく、初期費用を低く抑えることができます。PC1台あたりの年間コストは経費として計上することも可能です。
	[参考例] 年間のライセンス管理に要する時間とコスト ※A社(制作会社:社員数9人)の場合		
	Creative Cloud導入前 約120時間 Creative Cloud導入後 約38時間 ← 約1/3に削減!	管理コスト 人件費 / 雑費(紙、ファイルなど) 約70%削減	

ライセンス購入手続き
 ライセンスの割り当て・展開
 台帳の作成・更新
 アップグレード作業
 利用状況の確認

Creative Cloudグループ版について詳しくは www.adobe.com/go/cct

アドビ システムズ 株式会社

記載の情報は、2017年1月現在のものです。内容に関しては予告なく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

Adobe, the Adobe logo, and Creative Cloud are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.

© 2017 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

